

3501 住江織物

吉川 一三 (ヨシカワ イチゾウ)

住江織物株式会社社長

米国、タイの自動車内装事業が好調に伸長し増収増益

◆連結決算の概要

2013年5月期の連結業績は、売上高818億98百万円(前期比65億74百万円増、期初計画比8億98百万円増)、営業利益20億57百万円(前期比10億26百万円増、期初計画比57百万円増)と計画を上回る結果となった。経常利益24億26百万円(前期比11億61百万円増、期初計画比76百万円増)は、持分法による投資損失が26百万円発生したが、営業増益に伴い大幅な増益となった。また、大阪事業所の土地・建物の減損や物流センター移転等の事業改善費用を特別損失11億2百万円計上したため、当期純利益は8億20百万円(前期比1億94百万円増、期初計画比6億80百万円減)となった。

連結売上高818億円のうち、国内は612億円(前期比39億円減)に減少した。要因としては、自動車の生産台数の減少に加え、尖閣諸島をめぐる問題から中国向け輸出車が一気に減少し、自動車内装事業が減収となったことが挙げられる。また、一部車種でモデルチェンジ前の減速も影響した。海外は、米国やタイの自動車内装事業が好調に推移したため、207億円(同105億円増)に倍増している。増収分の内訳は、北米65億円、アジア37億円、その他3億円である。

連結営業利益20.5億円のうち、国内は10.8億円(前期比0.2億円増)で、売上高が減収ながら微増益となった。インテリア事業では、循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS(エコス)」を中心に業務用カーペットが好調に推移したことが営業利益を押し上げ、自動車内装事業では、コストダウンの取り組みが功を奏した。海外は9.7億円(同10億円増)と大幅な増益となっており、自動車内装事業の米国とタイの子会社が貢献した。

◆事業セグメント別の状況

インテリア事業は、売上高が337億27百万円(前期比19百万円減)で、営業利益は5億85百万円(前期比2億87百万円増)となった。オフィスビルや商業施設、ホテル向けの業務用カーペットは、大型物件の受注などから売上高は前期を上回った。とくに2011年7月から発売した「ECOS」は、発売当初の高い評価を継続して順調に売上高を伸ばした。高い市場シェアを占める一般家庭向けカーペット、ラグマットでは、個人消費の持ち直しの動きが一部でみられたものの、雇用や所得環境は依然として厳しく、売上高は前期を下回った。カーテンは、主力商品の「mode-S」と「U-Life」が堅調に推移し、さらに「ディズニーシリーズ」と「デザインライフ」も好調だったことから、売上高は前期実績を上回った。壁紙類は、原材料価格の高騰と競争激化によって前期を下回った。

自動車・車両内装事業は、売上高が439億38百万円(同63億79百万円増)で、営業利益は26億59百万円(同8億57百万円増)となった。自動車内装関連では、国内のカーペット事業は年度前半にエコカー購入補助金の効果があったものの、同補助金終了による需要減と中国向け輸出車の減少により、売上高・営業利益とも前期を下回った。海外は、米国とタイで新規車種の受注と日系自動車メーカーの生産増加によって、それぞれ売上高・営業利益とも前期を大きく上回った。シート地等のファブリック事業は、カーペット事業と同様に国内の売上高は前期を下回ったものの、経費の削減などが功を奏し、営業利益は前期を上回った。海外は、中国では9月以降の日本車

販売台数減少の影響を年度前半の堅調な自動車販売によって補い、米国とタイでは、カーペット事業と同様に、新規車種の受注と日系自動車メーカーの生産増加を受け、中国、米国、タイのいずれも売上高・営業利益ともに前期を上回った。ちなみに期初の為替想定レートは1ドル=80円であったが、決算時には1ドル=94円で換算している。

鉄道車両内装関連では、年度前半の大手私鉄を中心とした大型リニューアル工事が収益を牽引した。また年度後半にかけて関東地区のシート張り替え工事が回復し、年間を通して堅調に推移した。東海道・山陽新幹線N700Aにはシート地や環境にやさしいクッション材「スミキューブ」などの内装材を納入した。

バス向けは、新車生産台数が前年を下回り、売上高は前期並みとなったものの、グレードの高いオプション仕様車が増加し、利益面で貢献した。車両関連全体として売上高はほぼ前期並みとなったが、営業利益は前期を大きく上回った。

機能資材事業は、売上高が41億29百万円(同2億18百万円増)で、営業利益は77百万円(同1百万円増)となった。ホットカーペットは、中国の子会社で生産し、日本でOEM販売しており、当期も好調を維持して前期の受注台数を上回った。タイルカーペットのOEM販売は、国内向けでは低迷したものの、海外向けは大幅に増加した。消臭関連では、空気清浄機向けフィルターと一般家庭向け置き型消臭剤「香りでごまかさない 本当の消臭」が好調に推移した。その他では、遮熱ルーフィング材が伸長した。

◆今期の業績予想と中期経営計画

当社は本年12月で創業130年、会社創立100周年を迎える。2014年5月期の連結業績予想として、売上高850億円、営業利益24億円、経常利益29億円、当期純利益18億円を目指し、6月からスタートした。

連結セグメント別業績予想として、売上高は、インテリア356億円(前期比18億73百万円増)、自動車・車両内装450億円(同10億62百万円増)、機能資材43億円(同1億71百万円増)、その他1億円(同3百万円減)を見込んでいる。営業利益は、インテリア7億円(前期比1億15百万円増)、自動車・車両内装29億70百万円(同3億11百万円増)、機能資材90百万円(同13百万円増)、その他30百万円(同2百万円減)、調整額としてマイナス13億90百万円(前期マイナス12億97百万円)を計画している。インテリア事業の回復に加え自動車内装の海外事業拡大によって、2014年5月期は売上高・営業利益とも増収増益となる計画である。

株主配当については、2013年5月期は年間配当金5円(中間2.5円、期末2.5円)としている。2014年5月期は、年間配当金6円(中間2.5円、期末は2.5円に100周年記念配当1円を増配)を計画している。

2012年6月よりスタートした中期3カ年計画“Global Evolution 2015”の1年目を終え、最終年度の売上高目標850億円は1年前倒しで2014年5月期に達成できる見込みである。しかし、営業利益は24億円(策定時計画は26億30百万円)に留まることが予想される。“Global Evolution 2015”の基本方針として、自動車内装事業を中心としたグローバル戦略、「ECOS」をはじめとするオンリーワン商品の積極的な展開によって、市場シェアの拡大と利益率の向上を目指している。

海外事業の見通しとしては、自動車内装事業を中心に海外比率を高め、2014年5月期の海外売上高は230億円(うち北中米127億円、アジア他103億円)、海外営業利益は12億50百万円を計画しており、海外の営業利益が国内を逆転する見込みである。最終年度2015年5月期の最新見通しは現在精査中であり、2014年5月期第2四半期決算後に発表したいと考えている。

2013年5月には、新たにメキシコヘカーマットの製造拠点を設立した。米国、中国、タイ、インド、インドネシアなど、海外展開は順調に進んでおり、今後も積極的に海外事業の拡大に取り組んでいく計画である。

◆質 疑 応 答◆

カーペットやシートファブリックなど、自動車内装材をトータルで提供できる強みについて、具体的に伺いたい。

カーペット系とシート系の両方の情報網からデザインコンセプトといった基本情報が得られるため、有利である。海外展開の際は、国によって得意な分野で先行展開できるため、メーカーにおけるサプライヤーとしての評価が高まる。総合力が強いといえる。

(平成 25 年 7 月 24 日・大阪)

(平成 25 年 7 月 25 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見ることができます。

<http://suminoe.jp/ir/setsumei/>